

課題一

問一 「境目」を引くことによってどのようなことが起こるのか。

答え それぞれの季節を際立たせて日々がへんぺいに続いているのではないことを知りたくなったり、知ってそれぞれの日々をいとおしみたくなる。

解説 「境目を引く」は三行先で「境目をつくって」と言い換えられているので、それに続く部分が答えとなる。

課題二

問一 なぜ「境目」を作るのか。

答え a 認識 b 区別

解説 物事に区別がなくひとまとまりの状態の時、私たちはかたまりとしてそれを認識できるが、そのかたまりを構成している一つ一つの物事を認識できません。たとえば、羊の群れを例にあげると、「羊の群れがいる」とはわかっても、一頭一頭を認識することはできません。名前がついていたり、一頭一頭をよく観察して違いが見えてきたりすると、それぞれがどんな羊かわかるようになります。このように物事の「認識」にはどうしても「区別」が必要なのです。

〈ちよつと発展的内容〉

この羊の群れの例の場合、個体につけられた「名前」は個体を区別するための「境目」であると言えますね。物事につけられる名前は別の言い方をすれば「言葉」です。言葉も「区別」のための「境目」だと言えます。とすれば、「言葉」は「認識」のために必要なものということになります。

問二 「境目」の「本来の目的」は何か。

答え ものを認識するための区別を行うこと。

問三 「そのようなものに寄り添ってしまう可能性」の「そのようなもの」とは何か。

「差別」や「暴力」

解説 指示語の問題の場合、ほとんど指示内容は前にあります。

◇

問四 「境目を引く行為は、非常に困難なものを呼び寄せられる可能性を持つ行為である」のはなぜか。

答え 区別をすることが差別や暴力につながる可能性をもっているから。

解説 まず「境目を引く行為」とは「区別すること」と説明する。次に「困難を呼び寄せる」は「そのようなものに寄り添ってしまう」の言い換えなので、とりあえず「差別や暴力を呼び寄せる」と置き換える。つなぐと「区別することが差別や暴力を呼び寄せる」となるが、「呼び寄せる」は擬人法なので擬人法を用いない言い方にして、最後に理由をしめす「から」をつける。